

『第三者評価に参加して～事業者からのコメント～』

家庭的保育事業 藤原亜子

家庭的保育事業が認可保育園となり約10年となることや、私自身の保育士としての役目がもうあとわずかとなることから、今までやってきた保育がどのように評価されるのだろうか、という思いで第三者評価に参加しました。

一緒に保育をしている職員と、日頃からの意見の交換や保育内容の検討、改善を話し合う機会が多くなり、評価への取組への気持ちを共有することができました。

子どもたちの未来を見据えて今できることを考え工夫することで、一人一人の好奇心を育みたいという思いから、「SDGS」な持続可能な保育や世界に出会うための一歩となるよう、外国の「玩具や言葉」に触れる機会が増えていくように取り組んでいるところです。

評価委員の方々にも共感を示してもらい、多くの指導を頂けたことをうれしく思います。

変わりゆく世界情勢の中で、たくましく、自分らしく生きていけるように、保育者も、保護者も、何より子どもたちが楽しく笑って一日が過ごせるような、そして困ったときには手を差し伸べてくれる人とたくさん出会える、より良い環境の保育現場が増えることを願いたいと思います。